

2009年12月9日

鳩山「維新内閣」をいま一度沖縄県民と同じ平和を希求する道に戻せないかと考え、それには「沖縄で9・11を考

えよう」講演会が示唆を与え、知るに違いないと思った。

講演会は米国人建築家リチャード・ゲイツ氏と平和活動家きくちゆみさんを迎えて、あの不可解な「9・11事件の真相」に迫る。アフガニスタン戦争の直接の口実となった「同時多発テロ」と言われる事件の全貌を知ること

は、アメリカの戦争政策に振り回される沖縄県民はもちろへん、日本政府にとっても貴重な知識となる。

8年前の9月11日、午前8時46分、WTC（ワールドトレードセンター）北棟にアメリカン航空11便が激突して事件は始まった。次いでWTC南棟にユナイテッド航空175便が、ペンタゴンにアメリカン航空77便が激突したとされ



13日に「9・11を考えよう」講演会

不可解な事件の真相に迫る

る。しかし、最初の激突からペンタゴン攻撃までの52分間、アメリカ空軍の1機すら「緊急発進」した記録はない。「空軍は何をしていた」と事件当時より指摘され、政府の「公式報告書」では全く無視されている一例だ。

今回来日する専門家や平和活動家、私を言わず講演会呼び掛け人の多くが「9・11は米政府による自作自演の犯罪」とほぼ確信している。「うそをつく犯罪者政府」が鳩山内閣と沖縄県政の交渉相手だと覚悟せねばならない。県知事をはじめ政治家の皆さんにはぜひ当日参加され、専門家の訴えに耳を貸されるよう訴える。

講演会は13日午後2時、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター劇場棟で開催。前売り券（1000円）は球陽堂書店0998（836）7273で販売。

（工学博士・永井 真）